

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	・研修に先立ち、介護職の現場、仕事内容について、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、実践的に取組めるようにする。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	1	1		<講義内容・通信学習課題の概要等> ・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス 視聴覚教材DVDを活用
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	5	5		<通信学習課題の概要等・講義内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (現場職場の体験談、視聴覚教材の活用) ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種・介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 (演習実施方法) 現段階での介護職のイメージや知っている事についてグループディスカッションを行って、知っていることと、これから学ぶことを明確にする。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	一般財団法人 長寿社会開発センター出版発行 DVD 教材
------------	---------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援の職務の理解			
指導目標	① 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し理解する。 ② 自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点、及びやってはいけない行動例を理解する。 ③ 虐待を受けている高齢者への対処方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・人権と尊厳の保持 ・介護分野におけるICF・QOL ・ノーマイゼレーション、 ・虐待防止・身体拘束禁止、 ・個人の権利を守る制度の概要 <演習の実施方法> 虐待による具体的な事例を複数示し、班体制によるケーススタディを行う。
②自立に向けた介護	4	1	3	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・自立支援 ・介護予防 <演習の方法> ・自立支援 ・介護予防
③人権啓発に係る基礎知識	2	2		<通信学習課題の概要等・講義内容> 人権について、人権への取り組み、 <演習の方法> ・身近な人権問題、どんな差別があるかグループワークで話し合い、ヘルパーとして捉えるかディスカッションを行う。
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称: 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えること。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多機種との連携	2	1	1	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・介護環境の特徴と理解 ・介護の専門性 ・介護に関する職種
②介護職の倫理	1	0.5	0.5	<通信学習課題の概要等> ・職業倫理 <講義内容> ・職業倫理
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策 <演習の実施方法> ・可能な限り具体的例を示す、緊急対応の重要性 ・身近な感染症対策 ・班体制によるケーススタディ、発表
④介護職の安全	1	0.5	0.5	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・介護職の心身の健康管理 ・介護職員の安全衛生
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	① 介護保険制度や、障がい者総合支援制度とその目的、サービス利用の流れを理解する。 ② 各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	0.5	2.5	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・仕組みの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
②医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・医療行為と介護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	<通信学習課題の概要等・講義内容> ・障がい者福祉理念の制度 ・障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	・高齢者や障害者とのコミュニケーションの目的を理解し、一人ひとり異なることと、その違いを認識して、初心者として取るべき行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護におけるコミュニケーション	3	2	1	<通信学習課題の概要等> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的込みニュケーション ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 <講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的込みニュケーション ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1	2	<通信学習課題の概要等> ・記録における情報の共有化 ・報告 ・コミュニケーションを促す環境 <講義内容> ・記録における情報の共有化 ・報告 ・コミュニケーションを促す環境
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	・高齢者に多い心身の変化や疾病、疾病の病状などについて具体例を掲げ、その対応における留意点を説明し、生理的な側面から理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うことと体の 変化と日常	3	2	1	<p><通信学習課題の概要等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応（反射）の変化、喪失体験 ・体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	3	1	2	<p><通信学習課題の概要等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 骨折、筋力の低下と動き 姿勢の変化、関節痛 ・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を示す。 循環器障害（脳梗塞、脳内出血、虚血性疾患）循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状、誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気付く視点、 高齢者は感染症にかかりやすいこと。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 認知症の利用者の心理・行動から、介護において認知症を理解することの必要性に気付 ② 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護する上での原則についての理解を促す			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	<講義内容・通信学習課題の概要> ・認知症の理念や利用者中心というケアの考え方について概説でき高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<講義内容・通信学習課題の概要> ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義、物忘れ殿ついでい、せん妄の症状、健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア) 治療、薬物療法、認知症に使用される薬
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	<講義内容・通信学習課題の概要> ・認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状(BPSD)、不適切なケア、生活環境による改善 ・認知症の利用者への対応 本人の気持ちを観察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケア
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	<講義内容・通信学習課題の概要> ・認知症受容課程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイとケア)
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(8) 障害の理解			
指導目標	① 介護において障害の概念とICFを理解する。 ② 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点について理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障害の基礎的理解	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要・講義内容) ・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションの概念
③ 障害の医学的側面、 生活障害、心理・行動の 特徴、かかわり支援などの 基礎的知識	1	0.5	0.5	(講義内容・通信学習課題の概要) ・身体障害 視覚障がい、聴覚、平均障がい、音声・言語・肢体不自由 内部障がい ・知的障害 知的障害 ・障害者福祉の基本理念 統合失調症、気分(感情障がい)依存症などの精神疾患 高次脳機能障がい、学習障がい、ちゆい血管多動性障がい などの発達障害、 ・その他の心理の機能障がい
④ 家族の心理、かかわり支 援の理解	1	0.5	0.5	(講義内容・通信学習課題の概要) ・家族への支援 障がいの理解、障がい受容支援、介護負担の軽減
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(9) 心と体のしくみと生活支援技術			
指導目標	① 介護実践に必要な心と体のしくみの基礎的な知識、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。 ② サービスの提供例の紹介などを活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ア 基本知識の学習 ① 介護の基本的な考え方	4	1	3	(講義内容・通信学習課題の概要) ・倫理に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	1	3	(講義内容・通信学習課題の概要) ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・心の持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態が心に与える影響
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	1	3	(講義内容・通信学習課題の概要) ・人体の構造と機能 ・バイタルサイン ・ボデイメカニクス ・中枢神経系と体制神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・高齢者の生理的特徴 ・体の各部の名称と動きに関する基礎知識について ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボデイメカニクスの活用 ・中枢神経系と体制神経に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子と普段との違いに気づく視点
④ 生活と家事	3	3	0	(講義内容・通信学習課題の概要) ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援 ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性、能動性を引き出す ・多様な生活習慣、価値観 (演習実施方法) ・限られた食材の中から食事メニューの作成 ・グループに分かれてロールプレイングを行う
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3	3	0	(講義内容・通信学習課題の概要) ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与 (演習実施方法) ・居室内のリスクマネジメント

<p>⑥ 整容に関する心と体のしくみと自立に向けた介護</p>	6.5	6.5	0	<p>(講義内容・通信学習課題の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について ・身体上に併せた衣服の洗濯、着脱 ・身支度 ・整容行動 ・洗面の意義、効果 <p>(演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者のベット上での寝衣交換 (上、下) ・肢体不自由者の衣服着脱の介助
<p>⑦ 移動・移乗に関連して心と体のしくみと自立のに向けた介護 ① ②</p>	13	13	0	<p>(講義内容・通信学習課題の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところと体の要員の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について <p>(実技演習実施方法)</p> <p>少人数のグループに分かれ各ベットで実技演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベットメイキング ・ベット上での体位交換、肢体不自由者の立位、座位介助 ・ベットから車いすへの介助 ・車いすの安全点検 ・視覚障害者の歩行介助 ・肢体不自由者の歩行介助 (T字杖)
<p>イ 生活支援技術の講義・演習</p> <p>⑧ 食事に関連したところと体のしくみと自立に向けた介助</p>	6.5	6.5	0	<p>(講義内容・通信学習課題の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事にに関する用具 ・食器に関する活用方法と食事形態と体のしくみ、楽しい食事を阻害する心と体の要員の理解と支援方法、食事の社会参加の留意点と支援について ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備 (時間・場所等) ・食事にに関する福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥製肺炎の予防 <p>(実技演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループに分かれ実技演習を行う
<p>⑨ 入浴と清潔保持に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護</p>	6.5	6.5	0	<p>(講義内容・通信学習課題の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところと体の要員の理解と支援方法について ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭 (身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方) ・目、鼻、耳、爪の清潔方法 ・陰部洗浄 ・足浴、手浴、洗髪 <p>(実技演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベット上での洗髪 ・肢体不自由者に対する座位での足浴 ・手浴
<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6.5	6.5	0	<p>(講義内容・通信学習課題の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄の意味と排泄を取り巻く様々な環境整備と排泄用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する心とからだの要因の理解と支援方法 ・排泄とは ・身体面 (生理面) での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド・羞恥心 ・プライバシーの確保 ・オムツは最後の手段/オムツ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活に及ぼす弊害 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ・便秘の予防 (腹部マッサージ)

				(実技演習実施方法) ・ベット上でのオムツ交換(紙・布)の方法 ・ポータブルトイレでの排泄介助
⑪ 睡眠に関連したところと体のしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	0	(講義内容・通信学習課題の概要) 睡眠の意味と睡眠をとりまく環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行う事ができる。 ・安眠の為の介護の工夫 ・環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠る為の寝室) ・安楽の姿勢、褥瘡の予防
⑫ 死にゆく人に関連したところと体のしくみと終末期介護	1.5	1.5	0	(講義内容・通信学習課題の概要) ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点、本人、家族の説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携について、列挙できる ・終末期ケアとは (実技演習実施方法) 少人数のグループに分かれて「ターミナルの利用者への多角的な支援について」事例検討を行う。
ウ 生活支援技術演習 ⑬ 介護課程の基礎的理解	2	2	0	(講義内容・通信学習課題の概要) ・介護課程の目的、意義、展開 ・介護課程とチームアプローチ
⑭ 総合生活支援技術演習	10	10	0	(講義内容・通信学習課題の概要) ・(事例により)一連の生活支援を提供する展開と技術 ・利用者の心身の状況にあわせた介護提供 (演習実施方法) ・班体制に分かれて事例検討を行う。様々な場面における開権ポイント演習を行う。
(総合計時間数)	75	66	9	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・介護用ベッド・車いす・ポータブルトイレ・テーブル・防水布・自助具・椅子・クッション・食器 ・タオル・ストロー・スプーン・フォーク・はし・吸いのみ、おしぼり、とろみ剤・取付け式手摺り ・便器・各種おむつ・パット・バスタオル・着脱しやすい衣類・トイレットペーパー・パジャマ ・シャワーチェア・手摺り・洗面器・シャンプー・リンス・ドライヤー・バケツ・ゴム手袋 ・陰部用洗浄容器・歯ブラシ・コップ・受水器・巻綿子・コップ・マットレス・枕・枕カバー ・シーツ・介助バー・歩行器・各種つえ・白杖・アイマスク・三角巾・包帯・ガーゼ
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 112

商号又は名称： 社会福祉法人 ともしび福祉会

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	① 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。 ② 今後も継続して学習することを前提に介護職が身に付けるべき知識や技術を学ぶべきか理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2		(講義内容・通信学習課題の概要) ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと (演習実施方法) 研修を通して学んだことを振り返り、 グループディスカッションと発表をおこなう
③ 就業への備えと 研修修了後における実例	2	2		(講義内容・通信学習課題の概要) ・介護現場で学び続ける知識、及び技術とその必要性 ・介護職の職務内容及びその課題と解決方法について (講師の体験談及び全体のディスカッション)
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。